

Report

令和9年 本道初開催の 「全国和牛能力共進会」に 向けた取組み

一般社団法人 北海道酪農畜産協会
家畜登録改良部

当協会は、本道の基幹産業である酪農畜産の発展に資するとともに、畜産を取

巻く諸課題に総合的に取り組むため、三

つの社団法人（北海道畜産会、北海道肉

用家畜協会、北海道酪農リース協会）が

統合し、平成一〇年四月に発足しました。

当協会における主な業務は、酪農・肉

用牛生産者の経営診断支援、肉用牛の肥

育生産者負担金の管理および交付金の交

付、畜産の生産振興に関する各種支援、

酪農畜産に関する施設・機械のリース、

肉用家畜の登録・改良、畜産クラスター

構築の支援、各種協議会等事務局の運営

など、酪農畜産の振興と経営の体質強化

を図るため各般にわたる事業を実施して

います。

全国和牛能力共進会の第二回大会が、

令和九年に北海道で初めて開催されるこ

ととなりましたが、当協会は、生産者や

関係機関・団体で構成する協議会等の事

務局を担いながらこの誘致等に携わって

きましたので、今回は全国和牛能力共進

会とこれに関連した和牛振興に関する取組みについて紹介します。

一・全国和牛能力共進会とは

全国和牛能力共進会（以下「全共」と

いう。）は、五年に一度、各道府県から

選抜された和牛が一堂に会してその優秀

性を競い合うことから「和牛のオリンピック

ク」とも称され、この大会で優秀な成績

をおさめることが各道府県のブランド力

向上につながるため、全国の和牛生産者

にとって最も重要な大会となっています。

公益社団法人全国和牛登録協会の主催

により、和牛の能力と斉一性の向上を目的に、和牛生産や改良上の課題をテーマ

として掲げ、昭和四一年の第一回岡山大会から令和四年の鹿児島大会まで、過去

一一回開催されています。近年では参加

県が約四〇、出品牛が約五〇〇頭、来場

者数は約三〇万〜四〇万人の一大イベント

となっております。

と

北海道は昭和五二年の第二回宮崎大会から参加していますが、回を重ねることに上位入賞の割合が高まっており、地元開催の北海道大会では、大きな飛躍が期待されています（表1参照）。

二．北海道開催の経緯

平成二十四年の第一〇回長崎大会あたりから、これまでの入賞成績を鑑み、「そろそろ北海道で開催を」と生産者から声が上がるとなり、生産者で組織する北海道和牛振興協議会では、道内の和牛改良組合等から同意を得て令和元年に北海道誘致を決議しました。

これを受け、道内関係団体で組織する北海道和牛生産戦略会議で誘致について検討の上、令和二年八月には知事を会長とする「第一三回全国和牛能力共進会北海道誘致推進協議会」が設立され、同年九月には主催者の全国和牛登録協会に誘致要請を行いました。

表1 全国和牛能力共進会の開催状況と北海道の出品状況

回次	開催年	開催県	開催テーマ	来場者 (千人)	出品 県	出品頭数		北海道の入賞区分		
						全体	北海道	優等賞	1等賞	2等賞
第1回	昭和41	岡山県	和牛は肉用牛たりのるか		7	99				
第2回	45	鹿児島県	日本独特の肉用種を完成させよう		24	211				
第3回	52	宮崎県	和牛を農家経営に定着させよう		28	278	6	5	1	
第4回	57	福島県	和牛改良組合を発展させよう		33	314	11	11		
第5回	62	島根県	着実に伸ばそう和牛の子とり規模	293	35	322	10	7	2	1
第6回	平成4	大分県	めざそう国際競争に打ち勝つ和牛生産	610	35	391	12	4	8	
第7回	9	岩手県	育種価とファイトで伸ばす和牛生産	361	37	432	13	8	5	
第8回	14	岐阜県	若い力と育種価で早めよう和牛改良・伸ばそう生産	398	38	469	17	9	2	6
第9回	19	鳥取県	和牛再発見！ 地域で築こう和牛の未来	272	38	494	22	10	12	
第10回	24	長崎県	和牛維新！ 地域で伸ばそう生産力 築こう豊かな食文化	370	38	500	22	13	9	
第11回	29	宮城県	高めよう生産力 伝えよう和牛力 明日へつなぐ和牛生産	420	39	513	23	13	9	1
第12回	令和4	鹿児島県	和牛新時代 地域かがやく和牛力	308	41	438	22	19	3	

全国和牛登録協会では、北海道からの誘致要請に基づき同年一〇月に札幌で開催候補地現地調査会を実施の上、同年一月の理事会で第一三回大会の北海道開催を決定しました。

三．全共北海道大会に向けた和牛振興の取組み

関係者共通の指針

「和牛振興戦略プラン」

本道の肉専用種の繁殖雌牛（三歳以上）の飼養頭数は六四千頭で、鹿児島県九六千頭、宮崎県六九千頭に次ぐ第三位で、子牛の供給を通じて全国の畜産業を支えてきましたが、一方で府県の著名なブランド牛と比較すると、知名度や価格の面で課題も少なくありません。

このような中、令和九年に開催される全共北海道大会は、北海道和牛のブランド力の向上と和牛産地としての地位を確

北海道和牛振興戦略プランについて (R3.7.30策定)				
<p>趣旨</p> <ul style="list-style-type: none"> 全共北海道開催を契機に全国有数の和牛産地となるよう関係者共進の推進指針として策定 <p>和牛を取り巻く情勢</p> <ul style="list-style-type: none"> 飼養頭数は増加、戸数は減少傾向。持続可能な産地確立には改良組織の充実が必要 繁殖雌牛の能力は全国平均より低く飼養管理技術の向上や高能力牛の選抜が重要 ゲノム育種価や牛肉の食味性の遺伝能力評価を活用した育種改良体制の構築が必要 肥育頭数は増加傾向だが道外出荷が多く道内外の消費拡大に向けた情報発信が必要 <p>振興方向</p> <p>本道を「日本を代表する和牛産地」に</p> <p>■和牛の生産</p> <ul style="list-style-type: none"> 人づくり・組織づくり 持続可能な生産基盤の強化 <p>■和牛の改良</p> <ul style="list-style-type: none"> 繁殖雌牛の能力向上と適切な保留 特色ある種雄牛の造成 全国和牛能力共進会での上位入賞 <p>■ブランドづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 道民が食べたい北海道産和牛肉のPR 北海道産和牛肉を道外、海外へ発信 	<p>推進体制</p>	<p>人づくり・組織づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○育種・改良組合の活動支援、活性化 ○次世代リーダーの養成 ○若手技術者の養成など牛改良の基本理念の継承 ○経営改善指導や支援制度活用 	<p>持続可能な生産体制強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事業を活用した生産増・生産基盤整備 ○粗飼料の有効活用や耕畜連携の推進 ○受精卵移植やスマート農業技術を活用した効率的生産 ○SDGsの取組など持続可能な生産を推進 	
		<p>牛づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体型得点の向上など種牛能力の高い繁殖雌牛基盤の造成 ○道産種雄牛での血統的特徴ある集団造成 ○北海道らしい特色ある種雄牛の造成 (道有種雄牛造成運営会議の設立) ○ゲノム技術等活用し造成の加速・多様化 ○全国和牛能力共進会に向けた取組 	<p>ブランドづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○道民ニーズに沿った北海道産和牛肉の提供と品質のPR、特性に沿った肥育技術確立 ○北海道産和牛肉の知名度向上で関係者が連携 (北海道和牛ブランド懇話会(仮称)の設立) ○全共北海道大会を契機に関係者が連携しオール北海道で国内外へ情報発信 	
		<p>全道段階</p> <ul style="list-style-type: none"> 北海道和牛生産戦略会議(和牛振興協議会、道、畜産試験場、中央会、ホクレン、農業公社、ジェネティクス北海道、畜産物価格安定基金協会、酪農畜産協会(事務局)で構成) 	<p>地域段階</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域和牛振興協議会(事務局:地区連・ホクレン支所) ※道(総合振興局・農業改良普及センター)はじめ関係機関等と連携し推進 	<p>現場段階</p> <ul style="list-style-type: none"> 改良組合、和牛振興会等(事務局:農協・市町村) ※道(農業改良普及センター(支所))はじめ関係機関等と連携し推進
		<p>第13回全共北海道大会(令和9年)での躍進</p>		

図1 北海道和牛振興戦略プランについて

立する上で、またとないチャンスとなります。

このため、北海道和牛生産戦略会議では、全共北海道大会に向けて道内関係者が取り組む共通の指針として、「北海道和牛振興戦略プラン」(以下「プラン」という。)を令和三年に策定しました(図1参照)。

プランでは、①和牛の生産、②和牛の改良、③ブランドづくりを三つの柱とし、それぞれの現状と課題を整理の上、その振興方向と推進方策を示すとともに、このプランを実効性あるものにするため、全道・地域・現場の各段階において生産者をはじめ関係機関・団体がそれぞれの役割を担い連携し、具体的な推進対策に取り組むこととしています。

以下、この三つの柱に沿って取組みの概要を紹介いたします。

■「和牛の生産」に関する取組み

道内には二つの育種組合(びらとり、十勝)と五五の和牛改良組合があり、育種組合では北海道の特徴ある種雄牛を造るための活動、和牛改良組合では能力のある雌牛を造るための活動を主として行っています。本道が持続可能な和牛産地として発展していくためには、後継者の育

成や担い手の確保、リーダーとなる人材の育成とともに、組織の活動を活性化していくことが必要となります。

家畜の飼養や共進会出品については、経験を要する難しい技術であり、歴史ある主産地では技術者の養成など人づくりにおいても継続した取り組みが行われています。このため北海道においても「人づくり」として、次世代リーダーの養成と技術者養成を目的とした「和牛マスター」制度を令和二年度から創設しました。

道内各地域の中核的農家数名を「和牛マスター」に任命し、全共に向けた技術の取得と地域への波及のための活動を行っています。和牛マスターを中心に人の輪が広がり、和牛改良へのさらなる意欲の向上を期待しています。

また、「持続可能な生産基盤の強化」に向けて、引き続き各種補助事業等を活用した繁殖基盤の整備を支援するほか、粗飼料の有効活用や耕畜連携の取組みの推進、受精卵を活用した和牛子牛生産や

スマート農業技術を活用した効率的な生産体制の構築などに取り組むこととしていきます。

■「和牛の改良」に関する取組み

和牛の繁殖能力を示す指標に「初産分娩月齢」「平均分娩間隔」「基本登録得点」「繁殖雌牛登録時の体型得点」がありますが、本道はいずれの数値も全国平均を下回っています。

この繁殖能力に加え哺育能力や飼料利用率などを含めた種牛性は、生産力を高め生産効率の改善に直結することから、種牛性の高い雌牛を育種牛・高能力繁殖雌牛に指定して種雄牛造成や繁殖雌牛基盤の造成に活用することで、道内繁殖雌牛の能力向上を図ります。

また、牛肉（枝肉）になった際の重量や脂肪交雑（サシ）に加え、食味に関する脂肪の質（オレイン酸）や脂肪交雑の形状（サシのきめ細かさ）について、

遺伝子情報の分析により子牛段階からその能力評価が可能となる、道総研畜産試験場が開発したゲノム育種価評価を活用し、効率的な種畜選抜・改良を進めるほか、オール北海道の関係機関・団体等からなる種雄牛造成方針を検討する場を設け、北海道らしい特色ある種雄牛の造成に取り組むこととしています。

地元開催となる全共北海道大会では、このような取組みを活かして北海道らしい特徴を持つ繁殖雌牛や肥育牛を生産し出品牛を選定するとともに、和牛マスターを中心として出品技術の向上に取り組むなど、生産者と関係者が一丸となり上位入賞を目指します。

■「ブランドづくり」に関する取組み

本道の和牛の肥育頭数は近年増加傾向にあります。道内でのと畜は四割程度で、多くは道外へ出荷されています。枝

肉の形質・肉質は全国平均並となっておりますが、販売価格は全国平均をやや下回って推移しています。

また、道内には現在二〇程度の和牛ブランドがありますが、一部銘柄を除き流通量が少なく入手先も限られるなど、府県のブランド牛に比べ知名度は国内及び道民にとっても十分とは言えない状況にあります。一方、本道からの牛肉の輸出は年々増加しており、令和三年の輸出額は二億七八百万円となっております。

こうした中、全共北海道大会は道産和牛肉を国内外にアピールする絶好の機会であることから、道内の生産者や食肉・流通等の関係者が連携し、「北海道」のイメージを活かした各産地で共有できるブランドづくりや、道民をはじめ多くの消費者に親しまれる牛肉となるよう、道産和牛の品種特性を活かした生産技術や評価手法を検討するなど、生産・出荷・消費の拡大に向けた取組みを進めます。

四．第一二回全共鹿児島大会 の開催状況

令和四年一〇月六日から一〇日にかけて第一二回全共鹿児島大会が、種牛の部は霧島市牧園町の霧島高原国民休養地、肉牛の部は南九州市知覧町のJA食肉かごしま南薩工場ほかで開催されました。

過去最多となる四一道府県から四三八頭の牛が出品され「和牛日本一」を競いましたが、地元鹿児島県が全九部門のうち六部門で一位（優等賞一席）となり、また、種牛の部の名誉賞を第四区で受賞。他の三部門も宮崎県と大分県が一位となり、肉牛の部の名誉賞は宮崎県が第七区で受賞するなど、九州勢の力を見せつけられた大会となりました。

北海道出品団（団長・佐藤弘一北海道和牛振興協議会会長）は、今回の鹿児島大会を五年後の地元北海道での「大江ジャンプ」に向けて弾みをつける「ステップ」の場と位置づけ、全部門での優等賞入賞

と一つ以上の部門で一席となることを目標に掲げて臨みました。

出品牛及び出品者の皆さんは、この大会を目指して取り組んできた成果を遺憾なく発揮し、全九部門のうち八部門で優等賞入賞を果たし、第四区（繁殖雌牛群）と第五区（高等登録群）では、いずれも鹿児島、宮崎に次ぐ三席で、これまでで初めて複数区で三位以上の入賞を果たし、最終日のパレードに出場しました。惜しくも目標の完全達成とはなりませんでしたが、五年後の北海道大会に向けて、しっかりとした「手ごたえ」を感じ取ることができたと思います（表2参照）。

なお、一〇月一〇日の閉会式では、次回開催県を代表し鈴木知事が「今大会は生産者の熱意があふれる『和牛のオリンピック』にふさわしい大会。このような大会を北海道で初めて開催できることを大変うれしく思っている」「現在、五年後の開催に向けて、ご来道の皆様に満足いただける大会となるよう関係者一丸と

なって準備を進めている」「北海道にお越しの際は、道内ブランド牛はもとより新鮮で良質な農産物・水産物など食の恵みを堪能いただきたい」「五年後、北海道でお待ちしています」と挨拶されました。

五. 第一三回全共北海道大会に向けた準備と今後の取組み

令和二年に第一三回全共の北海道開催が決定した以降、令和三年には道内三〇の関係機関・団体の構成による「第一三回全国和牛能力共進会準備委員会」を組織し、北海道大会の運営主体となる実行委員会の設立に向けて開催基本構想や組織体制の検討などの準備を進め、令和四年七月五日には北海道知事をトップに道内三〇の関係機関・団体で構成する「第一三回全国和牛能力共進会北海道実行委員会」が設立されました(図2参照)。

開催基本構想の開催概要では、開催時期は令和九年九月上旬～一〇月上旬の五

表2 第12回全国和牛能力共進会 北海道出品牛 成績一覧

出品区	出品頭数	表彰内訳	名号	出品団体名	出品者	上位入賞県
第1区 (若雄)	21頭	優等賞5席	北神盾	(一社)ジェネティクス北海道		①鹿児島、②大分、③岩手
		優等賞13席	愛勝平	(株)十勝家畜人工授精所		
第2区(若雌の1)	33頭	優等賞13席	もね	更別和牛改良組合	(有)美郷牧場(更別村)	①大分、②宮崎、③鹿児島
第3区(若雌の2)	32頭	優等賞11席	なつか	浦幌町和牛改良組合	高田 哲雄(浦幌町)	①宮崎、②鹿児島、③宮崎
第4区 (繁殖雌牛群)	18組 (54頭)	優等賞3席	みさき352の5	十勝和牛振興協議会	大原 裕樹(足寄町)	①鹿児島、②宮崎、③北海道
			はつね		多田 隆弥(池田町)	
			ちさと		山田 貴教(幕別町)	
第5区 (高等登録群)	16組 (48頭)	優等賞3席	ゆうり	池田町和牛生産改良組合	武田 大治(池田町)	①鹿児島、②宮崎、③北海道
			さきな			
			うめの			
第6区 (総合評価群)	15組 (種牛群:60頭) (肉牛群:45頭)	優等賞8席 (種牛群:8位) (肉牛群:6位)	かつよ3	十勝和牛育種推進部会	(株)武隈BF(豊頃町)	①鹿児島、②宮崎、③島根 (種牛群) ①宮崎、②鹿児島、③兵庫 (肉牛群) ①島根、②鹿児島、③岐阜
			かつな		野澤 敬裕(池田町)	
			つばさ		西崎 一洋(幕別町)	
			はるき		篠島 太郎(豊頃町)	
			勝咲平		上土幌町農協肥育センター	
			桃太348		(有)トヨニシファーム(帯広市)	
			水一		柴山 匡(幕別町)	
第7区 (脂肪の質評価群)	21組 (63頭)	1等賞	亜光	小平町和牛生産改良組合	(有)グリーンリーフ(小平町)	①宮崎、②島根、③広島
			菊利奈	音更町和牛生産改良組合	山川 克之(音更町)	
			美津福	とうや湖和牛改良組合	平尾 博(洞爺湖町)	
第8区(去勢肥育牛)	58頭	優等賞21席	黄金福梅	音更町和牛生産改良組合	山川 克之(音更町)	①鹿児島、②島根、③岐阜
特別区 (高校・農業大専)	24頭	優等賞7席	ひめしょうぶ	北海道立農業大専(本別町)		①鹿児島、②宮崎、③岩手

(参考)和牛審査競技会	成績	所属	出場者氏名
高校生の部	出場	とわの森三愛高校	小松 拓斗(江別市)
女性・後継者の部	優秀賞	池田町和牛生産改良組合	多田 将平(池田町)

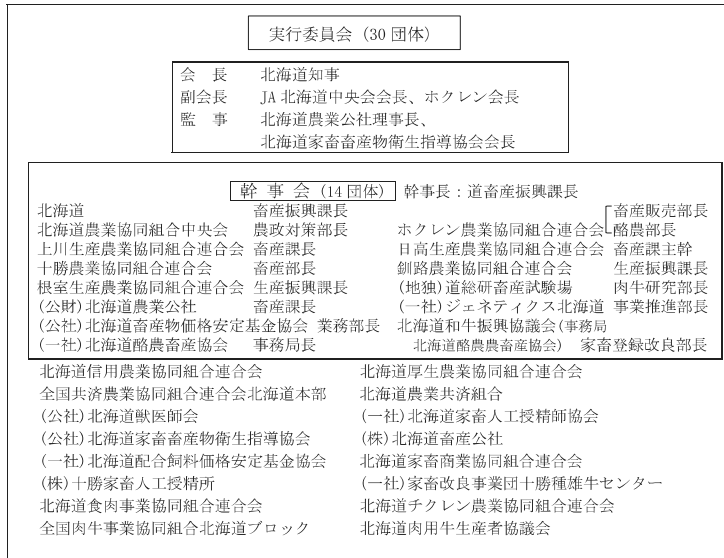
日間、出品頭数は第一回大会と同程度(種牛の部…約三〇頭、肉牛の部…約二〇〇頭)、来場者数は出品・大会関係者、一般来場者含め三五万人(過去三大会の平均)を想定しています。また、開催場所については、開催に必要な施設(種牛の部会場は、共進会エリア(審査会場、牧舎施設)、イベント会場、駐車場など、肉牛の部会場は、と畜・食肉処理施設、審査展示会場(枝肉

保管施設)、セリ会場、駐車場などを有し利用が可能であること、地域の協力が得られること、交通の利便性が良いこと、宿泊施設が確保できることなどを条件に、今後実行委員会が候補地を選定の上、正式には令和五年六月の全国和牛登録協会理事会で決定される予定です。

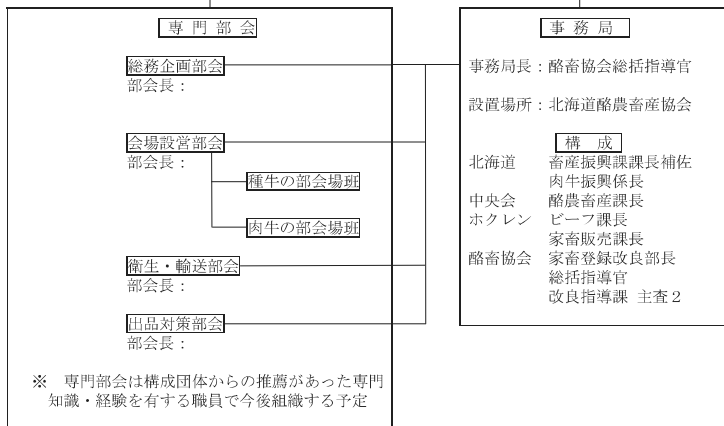
このほか、令和五年度中に会期と大会テーマが決定され、令和六年度には北海道大会基本計画(概算事業費を含む)を決定し、以降、基本計画を踏まえた各種実施計画(会場設営、催事広報、交通輸送、家畜衛生等)の作成と業務委託先の選定などを進め、開催前年の令和八年には大会実施本部を立ち上げ、令和九年度の大会開催に臨みます。

また、広報誌の作成やホームページの開設等により全共北海道大会に対する道内和牛関係者の参加意欲を喚起するとともに、イベントテ

(令和4年12月現在)



マ・大会マスケット等の公募や各種イベントでのPRなど積極的な広報展開により、北海道全共や道産和牛・和牛肉に対する道民・一般消費者の関心を高めながら、北海道大会を盛り上げていきたいと考えています。



執筆：総括指導官 成田 裕幸
(第一三回全国和牛能力共進会 北海道実行委員会事務局長)

北海道大会の成功に向けて、今後とも関係の皆様のご協力をお願いいたします。

図2 第13回全共北海道実行委員会の組織・人員体制